

## 2011年度イタリア短期留学の報告

藤田英樹・林 文明・森 光弘・木下 茂・松浦克至  
西村 諒・西尾明芳・水谷吉裕・鷺山 司

### 1. はじめに

本学では、キャリア科目として2009年度から海外研修Ⅱを開講している。学生の人材育成を兼ねた内容であり、春季休暇期間に参加者を募り、イタリアへの短期留学を実施している。研修先は、2000年から提携校となっているイタリア国立フェラーリ工業専門学校（IPSIA A' Ferrari以下IPSIAとする）が所在するイタリア・マラネロ市内の整備工場（カロツェリア）である。

本稿では、2011年度に実施されたイタリア短期留学について報告する。

### 2. 経緯

短期留学への参加募集は、海外研修・留学委員会（以下委員会とする）を中心に企画した。10月20日から参加募集ポスターの掲示を開始した。11月7日、8日の昼休みに、留学生センターにおいて募集説明会を実施した。図1に参加募集案内、図2に説明会開催案内を示す。


2011/10/20

**2011年度イタリア短期留学希望者募集**

海外研修・留学委員会

*Buongiorno!*

毎年、イタリアのフェラーリ工業専門学校の協力により、フェラーリの地マラネロでのイタリア短期留学を実施しています。イタリアでの自動車整備体験や異文化を知る良い機会です。興味のある学生はぜひ参加してください。



1. 期間：2011年10月22日（前夜）から11月20日
2. 募集人数：4名（希望者が多い場合は選考を実施します）
3. 主な滞在先：マラネロ（他の都市にも滞在予定あり）
4. 留学費用：40万円程度（航空運賃、旅行代、滞在費、保険料、学費等）  
今年度から本学学生の費用について短期留学制度を拡充しています。
5. 日程：説明会実施（フェラーリを扱う整備工場での自動車体験やホームステイを実施）
6. その他：・イタリア語の短期研修を併修いたします。  
・引当金が日本から発行します。

・短期留学を希望する学生は管理棟1階：留学生課（松浦）に申し込んでください。上記の内容は過去の例を参考にしたもので、目安となるものです。詳細が決まりしだい説明会を実施します。

*Grazie mille.*

図1 参加募集案内

2011/11/08

**イタリア短期留学説明会**

海外研修・留学委員会

*Buongiorno*

毎年、フェラーリ工業専門学校の協力により、フェラーリの地マラネロでのイタリア短期留学を実施しています。イタリアでの自動車整備体験や異文化を知る絶好の機会です。

下記の日程で説明会を実施します。  
興味のある学生は参加してください。

日時：2011年11月7日（月）  
12時50分から

2011年11月8日（火）  
12時50分から

＊同日開催内容（いずれか一日）

場所：留学生センター（1号館2階）

内容：短期留学の概要  
質問（費用や日程）にもお答えします。

*Grazie mille.*

図2 説明会案内

昨年（2010年）度から、海外研修Ⅱが履修可能な参加者において、特別奨学金の構想を委員会で提案し承認を得ることを考えていた。しかし、昨年度は専攻科学生2名の参加が得られたのみで、給付対象である学生の申し込みがなく、選考は未実施となった。参加者が出た段階で実施できるように予算計上されていたが、実施できなかった。

今回は、対象とする学生の応募があったので、特別奨学生の選考を面談と書面によって委員会の全員で審査した。選考の結果、参加希望の4名は、ともに人物・学業に優れており、海外研修Ⅱを履修する意欲も高いと判断し、4名を短期留学特別奨学生とする旨をまとめた。

1月19日、第20回教授会で承認が得られた。

写真1は、短期留学生4名とマラネロ市庁舎。（この日は、坂祝町との友好提携式当日で、日本国旗が掲げられていた。）

1月10日、17日、24日、2月1日、2日、3日は、委員会委員：藤田によるイタリア語の入門会話（テキストは、EDILINGUA社allegro 1を使用）の導入を実施した。簡単な挨拶と数字程度の表現が、渡航前までに、できるように指導した。

また、引率：野田氏と合流してからの2月6日、7日、8日にも実施し、「Posso～?: ～しても良いか」「Come si dice Italiano?: イタリア語で何と言う」「Hai capito?: あなたは理解しましたか」など、活用できる構文の学習まで進めた。



写真1

昨年度派遣された、専攻科：西田尚史君にお願いし、派遣学生からの質問に答えてもらう機会が持てた。学生相互の情報交換もできた。引率者としては、先入観による心配もしたが、有効にこの機会を活用できた。

2月2日には、学長室にて、特別奨学生採用通知式を実施し、採用書を各人に手渡した。特別奨学金（今回は10万円/一人）は、旅費の一部に充てることとした。同日の第21回教授会において、イタリア短期留学への派遣学生4名、引率者2名、野田毅氏と委員会：藤田英樹とする委員会報告をした。

昨年度の委員会においても、本学教員の現地派遣を考えたとしてまとめたが、二級整備士教育を担当する者の派遣は各所への事前調整が必要であり、早期実現はできなかった。今年度は各部署への事前調整がなされたため、実現させることができた。この点において、関係部署には改めて感謝いたします。教員の派遣目的は、10年を迎えるこの時期に、改めて留学受け入れの現状と問題点・改善部分を実際の土地で本学教員が知ることにあった。この春の短期留学も、夏のイタリア研修旅行と同様に、学校間の友好関係を深めることに深く関与してきた。

過去の経緯は、中日本自動車短期大学論叢第40号「イタリア短期交換留学の報告」などを参考にさせていただきたい。

### 3. 研 修 行 程

表1に示すように、2012年2月10日（金曜日）から3月10日（土曜日）の日程となった。これは、例年より約10日前の実施となった。学事日程上では、秋学期の追再試期間に重なる時期であるが、今回の参加者には、これに該当する者はいなかったため、予定を早期に進めることが可能となった。

表1 海外短期留学実施旅程

月 日	都市名・行事など	交通機関	時間	スケジュール
2月10日（金）	セントレア 発 フランクフルト着 フランクフルト発 ボローニャ 着  カステルヌオヴォ ランゴネ 着	LH737便  LH288便	10：55 15：25 16：55 18：15	中部国際空港からドイツ・ルフトハンザ航空でフランクフルト・アム・マイン国際空港を経由しイタリア・グリェルモ・マルコーニ・ポローニャ国際空港へ  <b>【ホームステイ泊】</b>
2月11日（土） -12日（日）	研修準備			土曜日、日曜日は研修準備、近郊日帰り研修旅行（モデナ、ペローナ、サンマリノ、フィレンツェ、ガルダ湖周辺、ヴェネツィアなど）
2月18日（土） -19日（日）	研修準備			
2月25日（土） -26日（日）	研修準備			
3月3日（土） -4日（日）	研修準備			
2月13日（月） -17日（金）	研 修			月曜日から金曜日までは研修 IPSIA, 鋳物工場, 工具店, カートガレージを適時見学
2月20日（月） -24日（金）	研 修			21日：山田学長来マラネロ 坂祝町とマラネロ市の友好提携式 22日：IPSIAとのプレゼンミーティング フェラーリ工場見学
2月27日（月） -3月2日（金）	研 修			24日：山田学長, 藤田帰国 研修最終週は各所で夕食会に招待
3月5日（月）	修了式			IPSIAにて修了式
3月6日（火） 7日（水） 8日（木）	モデナ 発着 ローマ	鉄 道		ローマ市内など見学  <b>【ローマ泊】</b>
3月9日（金）	ローマ 発 フランクフルト着 フランクフルト発	LH231便  LH736便	10：10 12：20 13：45	レオナルド・ダ・ヴィンチ・ローマ国際空港からドイツ・ルフトハンザ航空でフランクフルト・アム・マイン国際空港を経由し中部国際空港へ
3月10日（土）	セントレア 着		9：20	中部国際空港到着

イタリア到着までのフライトも順調であった。しかし、今年のイタリアは、現地の人も驚くほど寒く、ポーニャ空港で多くの雪に迎えられることとなった。ローマでは1956年来の大雪となり交通マヒも各所で起きていた。朝の挨拶も『Buongiorno!』より『Tanta neve!』(雪が多いですね)と会話を交わすこともあるくらいの積雪があった。昨年までのホームステイ先は、高地に位置するため2mくらいの積雪があったと現地で聞いた。研修の第1, 2週はこの悪天候が続いた。

宿泊はホームステイの形で、日本人6名が同宿することとなった。所在は、マラネロ市内から車で10分ほどのカステルヌオヴォ・ランゴネ(Castelnuovo Rangone)という住宅地である。

写真2は、ホームステイ先の窓辺からの雪景色。積雪は約30cm。右に見えるのはジョン・レノンという名の公園。

写真3は早朝、研修先へ向かう(出勤)前に、自動車の日常点検を実施中。



写真2



写真3

#### 4. 研修先での活動

研修先は、例年お世話になっているトニー・オート(Toni Autoフェラーリ専門の整備工場)には自動車工学科1年:西尾明芳君, 同学科1年西村諒君の2名, 新規研修先となるゴッツォーリ(Gozzoli Autotrasformazioni:主にエンジンチューニングを行う整備工場)にはモータースポーツエンジニアリング学科(以下MSE学科)2年:鷲山司君, 自動車工学科1年:水谷吉裕君の2名となった。両研修先ともマラネロ市内で、IPSIAから徒歩5分の距離に位置する。ホームステイ先から各研修先へは、レンタカーで引率:野田氏の運転で送迎した。

写真4は、トニー・オートの作業風景。グラインダーでワッシャーを磨き、リサイクル部品を作っているところ。日本では触る機会の少なくなった部品(キャブレターなど)の整備もあった。

写真5は、ゴッツォーリに山田学長が訪問されたときのもの。突然の訪問に少し緊張していますが、元気な様子です。エンジンチューニングが一段落つき、イタリア単語表の整理もできたの



写真4



写真5

で、IPSIAからの研修生：アントニオ君と話しをしていたところでした。ここは、留学生が思うような整備作業がなく、一方の研修先との作業量の差が大きく、今後、研修先として継続が妥当かの検討が必要である。

昼の休憩は約2時間と長い。留学生は、近くの大衆食堂 (trattoria) やピザ店 (pizzeria) で相互が、午前中にあった出来事を話したりした。

イタリアの方は、この時間に昼食とバール (bar) で時間を費やすスタイルである。仕事

が終わったかのように作業服を脱ぎ、身なりを整え、街に繰り出すのである。もちろん昼食を取りに自宅に帰る人も多くいる。写真6は、ピザ店での昼食風景。ピザ1枚が1.70€ (170円) ほどと安い。



写真6

週末は、次週の研修準備として当てられているが、荒天でない限り近郊への日帰り研修として各都市を見学した。写真7、8は、世界でもっとも古い共和国で、5番目に小さい国家サン・マリノ共和国 (Repubblica di San Marino 面積:61km<sup>2</sup> 人口:2万7,000人) を訪問したときのもの。国土の中央に標高750mのティターノ (Titano) 山がそびえ、その周囲に市街が広がっている。今回は、積雪が4mほどあり有名なグアイタ城塞 (Rocca Guaita) は臨時休館となっていた。天候が良ければ、遠くにアドリア海 (Mare Adriatico) が眺望できるのだが、この日は見る事ができなかった。

引率者は、学生の研修中に研修先を毎日訪問し、作業状況や学生からのリクエスト (例えば、作業場の換気が不十分で、体調が悪くならないように配慮してもらう) を担当者に伝えたり、学生の安全・体調管理には常に注意を払って進めた。



写真7



写真8

本学：藤田は、教員側での短期留学におけるサポートやIPSIAにおける欧州での整備教育の材料探しも行なった。IPSIAでは、産学連携としてTEXAというプログラムを昨年から立ち上げて

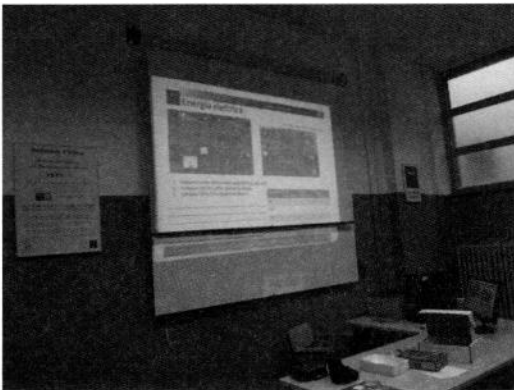


写真9

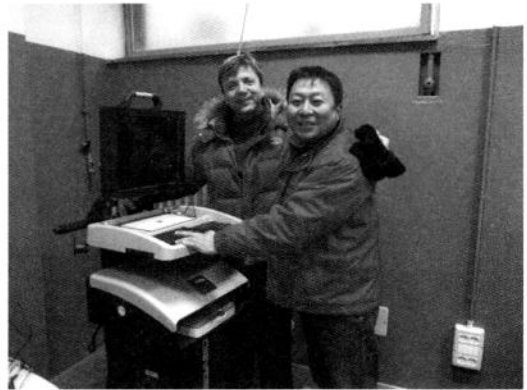


写真10



写真11

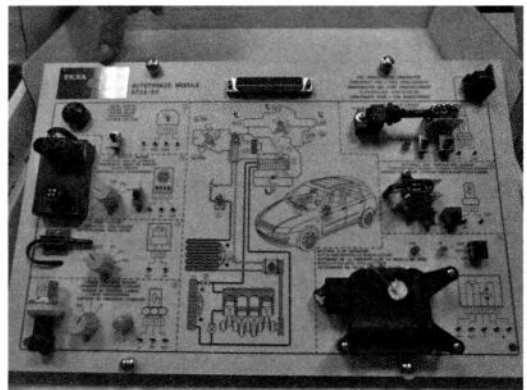


写真12

いる。早速、ラボとジャン・ルカ（Gian Luca）先生の授業に参加させてもらった。

自動車の電子制御技術の基礎・応用・実践までのプログラムであると理解した。担当教員もまだ、十分なレベルに到達していないようであった。見学中の授業でもトラブルが発生した。シミュレータからの出力が0Vとなった。トラブルの探求をするが、なかなか解決できなかった。結局は、学生が足元の電源スイッチを足で踏んで、電源がOFFになったというミスであった。

学生も実機に触れることができるので、授業が騒々しいことはなかった。教材システムを1セットで実施していたので、参加学生の全体への効果は、あまり期待できない。

今後、整備に関わる実習教員が派遣されることになれば、欧州の自動車システムを知るためにも、このTEXAプログラムの授業に同席することで得られるものが多いと考える。

写真9, 10, 11は、TEXAプログラムの授業風景。

写真12は、MODULEと呼ばれるシミュレータ（エアコンに使用されるセンサ）の一例。

## 5. 参加学生の感想

MSE学科：鷺山 司

イタリア短期留学では、多くのことを感じ、学びました。研修先のGozzoliではいい経験ができると期待していた反面、ほとんどイタリア語が話せない中で、どうやってコミュニケーションをとっていかうかと不安でした。しかし、実際行ってみると、皆さん気さくで楽しい人たちがばかりでコミュニケーションも少しのイタリア語や英語、あとはジェスチャーで、なんとかなってしまいました。ジョークの内容が、万国共通なところが多く、そのあたりでまず打ち解けることができたのが大きかったのではないかと思います。イタリア人のイメージが、日本にいる時はユーモアでよくしゃべり、気さくなイメージだったのですが、本当にその様な感じでした。

仕事内容に関しても、日本のエンジン屋さんでは、まず見せてはくれないところまで、いろいろと見せて頂き、その内容についても教えてくれ、いい経験になりました。キャブレータのエンジンセッティングなどはまず現代では見ることもできないので、どのような順番や方法でなど、じっくり観察させていただきました。

観光も、非常に思い出に残るものとなりました。いろいろな場所に行きましたが、どこも街が美しく歴史を感じました。しかし、そこに暮らす人たちの生活感があり、まだ歴史を刻み続けているんだと感じさせてくれました。いろいろな観光地に行くだけでなく、たくさんの種類の料理を食べました。ホームステイ先にはじまり毎日のランチのピザ、観光地の名物料理など美味しいものばかりで、帰るまでにかなり太りました。

イタリアにいる間に、たくさんの人たちと出会いましたが、誰もが、明るく前向きで楽しげでした。私たちが外国人だということもあったかもしれませんが、いろいろなことを話していただき、日本がどう思われているかも、少しわかりました。たくさん感じたことはありましたが、人とのコミュニケーションから得たことが、一番大きかったように思います。



写真13



写真14

写真13は、研修先の仕事仲間。テストベンチのエンジン室内です。

写真14は、昼食でよく利用したピザ屋さんのスタッフと私達です。

自動車工学科：西 尾 明 芳

イタリア短期留学は、中日本自動車短期大学に入学するきっかけでもありました。研修先は、トニー・オートさんでした。主に、フェラーリのエンジンを搭載した車の修理を行っていました。いつも工場には、修理待ちの車がいっぱい、見ているだけでも飽きないくらいでした。

研修一日目は、「どんな仕事をしているか見ている」という感じで見学ばかりでした。二日目からは、仕事をさせてもらえました。心境も渡航するまでは、緊張でどんな事をさせて貰えるのか考えもつかないくらいでした。しかし、仕事を始めると不安なんて微塵もなく、楽しくてしょうがないくらいでした。

研修の途中で、体調を崩した事もありましたが、一日休んで体調が戻り仕事に行くと「昨日はどうしたんだ。今日は大丈夫か。」と心配して頂いて、仕事の仲間として認識してもらえているのだと、嬉しく思えました。

写真15は、車全体のレストア作業の一環で、サスペンションの修理を行っており、板ばねを全て外して錆を落とし、塗装をして、組み付けを行っているところです。

他にも、多様な車種の電気系の修理、燃料ポンプの修理、キャブの調整など、日本ではもう見られないような修理も多くありました。

研修の終盤では、仕事もスムーズにはかどるようになりました。最後の大事な仕事にF40の修理を手伝ったことが印象に残っています。これからの人生に、深く影響を与えるような事も多々経験出来ました。今回の短期留学で関わったすべての人達に、感謝をしたいと思います。今後も、このような素晴らしい留学プログラムを続けてほしいと切に思います。

写真16は、エンジン分解後の記念撮影（エンツォさんとIPSIAの研修生：アムザ君）です。





写真15

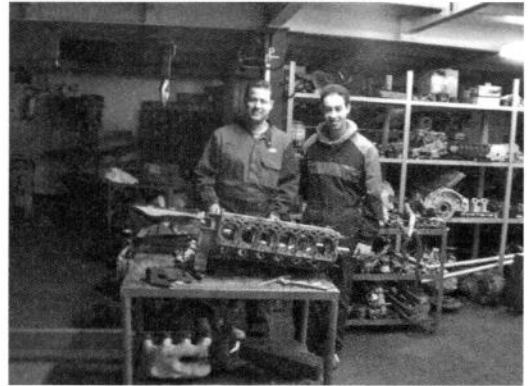


写真16

#### 自動車工学科：西 村 諒

私が中日本自動車短期大学に入学した理由の一つが、このイタリア短期留学に参加するためでもありました。そして、念願がかなって参加できた今回の短期留学は、思っていた以上に有意義なものとなりました。日本との大きな違いを、直接肌で感じられた貴重な一ヶ月でした。

今回の短期留学の大半を占めたのは、実際の職場で行う整備研修です。私の研修先は、トニーオートさんでした。工場の人達は、とても気さくで親切な方ばかりでした。作業内容をジェスチャーで教えてくれたり、作業の進み具合を気にかけてくれたり、雑談や一緒にコーヒーを飲んだり、とても作業がしやすく、緊張をあまり感じませんでした。それに、作業は正確スピーディで、ものすごく真剣に取り組んでいました。休み時間になれば、キッチリ休むメリハリがありました。日本人は休み時間を削って仕事をするので、日本とは仕事への取り組みの違いが分かりました。昼休みが2時間もあるのはうらやましかったです。

研修が終われば、ステイ先に帰って夕食を取ります。今回は、ファミリーがずっといる形ではなかったので、話に聞くホームステイとは少し違ったものでした。それでも、イタリアの人がどのような生活を送っているかを知るには充分でした。食事は毎日ボリュームたっぷり、美味しく飽きることもなかった。メイン料理だと思っていたパスタが前菜として扱われていたことにすごく驚きました。メインは主に肉料理で、あまり野菜を食べることがなく、たまにはサラダが食べたいと思うこともありました。案の定、帰国の頃には少し太ってしまったのは良い思い出です。

休日は、様々な場所に行きました。フェラーラなどあまり知られていない街にも足を運びました。どの街も写真を撮れば絵になる街並みが、とても新鮮でした。もちろん、イモラサーキット、モンツァサーキットやカートショップ等、本学ならではの見学先も訪問でき、楽しかったです。

短期留学を終えて、たくさん得るものがありました。日本との違いを多く知り、以前より一層イタリアへの興味が深まりました。イタリアに限らず、他の国にも行ってみたいと思うようになりました。私自身、この先海外で働いてみたいという思いがあります。この経験は、今後、必



写真17



写真18

ず役に立つものだと思うので、大事にしていきたいです。

写真17は、エミリア副校長先生宅での写真です。写真18は、ヴェネツィアでの思い出です。

自動車工学科：水谷吉裕

私は、イタリア短期留学で約一ヶ月間、チューニングショップのゴッツォーリという研修先でした。そこではエンジンベンチマークテストの手伝いをしました。もちろん最初は、ベンチテストの排気ルート確保のために、たくさん雪かきもしました。

研修中によく感じたのは、日本とイタリアの仕事スタイルの違いです。日本ではきりの良い所で休憩に入りますが、イタリアでは休憩時間になれば、すぐに作業を止めて休憩に入ることです。昼の休憩が2時間近くあり、日本の倍あったことです。そして、驚いたことは、工作中にも関わらず、食事をしたりワインを飲んでいました。日本では怒られそうなことでも「一緒にどうだ」とも聞いてきました。それでも仕事は楽しそうにやっていました。この光景を見ていると『日



写真19

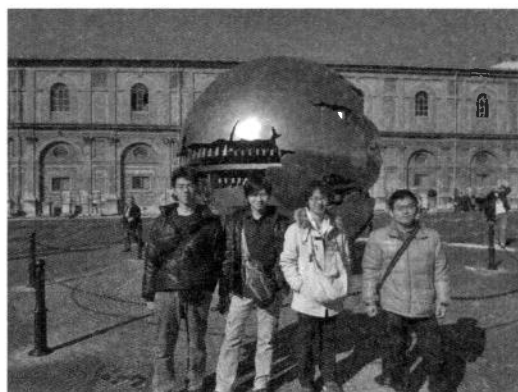


写真20

本人は良く働く』と感じとれました。この短期留学でイタリア文化・生活や仕事スタイルの違いが少しでも分かるようになってきました。

日本を外から見てみると、平和で仕事熱心な国だと分かりました。それより詳しいことは、自分の語学力不足では分からず、電子辞書を助けとして使うことも多かったです。もう少し語学の勉強をしてから参加できれば良かったとも感じました。

とても良い経験ができました。サポートしてくれた家族、関係の方々に感謝します。ありがとうございました。

写真19は、お世話になったゴッツォーリ夫妻と鷺山さんです。

写真20は、ヴァチカン博物館 (Musei Vaticani) のピーニャの中庭 (Cortile della Pigna) にある「球のある球体」(Sfera con Sfera) というオブジェの前です。この黄金球は、サン・ピエトロ大聖堂 (Basilica di San Pietro) のクーポラ (ドーム) の上にある球と同じ大きさという情報もあります。

## 6. ま と め

今回の短期留学は、募集段階で実施困難ではないかと予想していた。それは、昨年の本科・MSE科生の短期留学が実現できなかったことが不安要素であり、参加募集の難航が予測された。しかし、早い段階から、優秀な学生が募集に答えてくれることとなった。

事前準備として、語学学習と前年度に渡航した先輩学生の話しを聞く機会を十分設定できたことは良かった。

現地 2月21日に、岐阜県坂祝町とマラネロ市が友好都市提携を結んだ。このことを受けて、翌22日にマラネロ市役所前のエンツォ・フェラーリ講堂にて、坂祝町とマラネロ市・中日本自動車短期大学とIPSIAとの間でのプレゼンテーション・ミーティングが開催された。

各行政の方々からの挨拶の後に、IPSIA校長と本学学長からの今までのプロジェクトの成果報告に続き、学生のプレゼンも行われた。本学からは鷺山司君が壇上で、簡単なイタリア語で挨拶した後、短期留学での感想やイタリアでの生活体験を話した。(詳細部分は通訳者にてイタリア語に翻訳された。)

現地報道では、地元TVで鷺山君・藤田のインタビューが流れたほか、『GAZZETTA DI MODENA』2012年2月22日号にArriva all' Ipsia una delegazione di giapponesi (訳：IPSIAに日本からの訪問団が到着した。)と掲載された。また、『il Resto del Carlino MODENA』2012

### MARANELLO Oggi la firma del gemellaggio fra la città e Sakahogi

— MARANELLO —  
STRINGERÀ un patto di amicizia con la Città di Sakahogi, in Giappone, sede del Nac (Nakanihon Automotive College), scuola che da diversi anni collabora con l'Ipsia Ferrari in progetti di ricerca legati alla mobilità sostenibile. Oggi in consiglio comunale è prevista la firma del documento che sancisce l'accordo tra le due città: a siglare il patto saranno i sindaci Lucia Bursi e Muneyuki Minamiyama. Sarà presente per l'occasione anche Shigemitsu Jomori, console generale del Giappone a Milano. Domani alle 10, poi, all'Auditorium Enzo Ferrari si svolgerà un incontro tra le due scuole: presenti per l'Ipsia la preside Margherita Bazzani e la professoressa Emilia Paterno, per il Nac il preside Yamada Hiroyuki e il professor Fujita Hideki, oltre ai ragazzi dei due istituti: prevista durante la mattinata la consegna di una targa celebrativa del patto da parte del sindaco Bursi al sindaco di Sakahogi. La delegazione giapponese effettuerà poi nel pomeriggio una visita alla Ferrari. Il patto di amicizia tra Maranello e Sakahogi nasce per sviluppare legami tra le due città, per istituire relazioni istituzionali, con l'obiettivo di promuovere un'approfondita conoscenza reciproca; potenziare gli scambi culturali, linguistici, economici, industriali, ambientali ed educativi come fonti di opportunità per gli appartenenti alle due comunità. L'Ipsia Ferrari e il Nac, nell'ambito del loro gemellaggio istituito nel 2000, hanno già condotto scambi in qualità di 'scuole sorelle', condividendo importanti progetti. Le due città inoltre sono sede di importanti industrie automobilistiche, la Ferrari e la Mitsubishi Motors' Pajero. La cooperazione tra le due città permetterà lo scambio di 'buone pratiche', la condivisione delle eccellenze dei territori; metterà in relazione le diverse culture.

写真21



写真22



写真23



写真24



写真25

年2月21日号にもOggi la firma del gemellaggio fra la città e Sakahogiと掲載された。(写真21) 記事の要約は、日本の坂祝町からの訪問団が到着した。訪問団の目的は、マラネロ市との友好都市提携である。本日、二つの街が議会にて友好都市提携書を交わす。明日、エンツォ・フェラーリ講堂で、マラネロのIPSIAと坂祝の中日本自動車短期大学両校によるプレゼンテーション・ミーティングが行われる予定である。両校の永年の取り組みが、友好都市提携につながったと言える。(原文：イタリア語)

異国での公式行事に出席できたことはたいへん貴重なことであった。写真22, 23, 24, 25にミーティングの様子を示す。

## 7. おわりに

今回、坂祝町とマラネロ市との友好都市提携のセレモニーが行われ、短期留学生は、貴重な時間を持つことができた。また、フェラーリ本社の工場見学も可能となり有意義な研修となった。

以下の点が成果であった。

- ・「中日本自動車短期大学短期留学特別奨学生規程」を設け、実施できた。
- ・新規の研修先に短期留學生を派遣できた。
- ・イタリア（IPSIA）側での、本学留學生の受け入れ手順を委員：藤田が確認できた。
- ・歴史に残る降雪で、寒い欧州であったが無事故で研修を終了できた。
- ・短期留學生全員と引率者が、いろいろな場面で協力しながら有意義な時を過ごせた。

最後に、実施にあたり協力を頂いた引率の野田毅氏、本学の教職員、研修先の調整をして頂いた学園本部の蜂須賀氏には、深く感謝の意を表します。

#### 参 考 文 献

- 1) 林文明, 藤田英樹, 高瀬利恵子, 古川竜治, 清水勝昭: 中日本自動車短期大学論叢 第40号 (2010), イタリア短期交換留学の報告, p.113-119